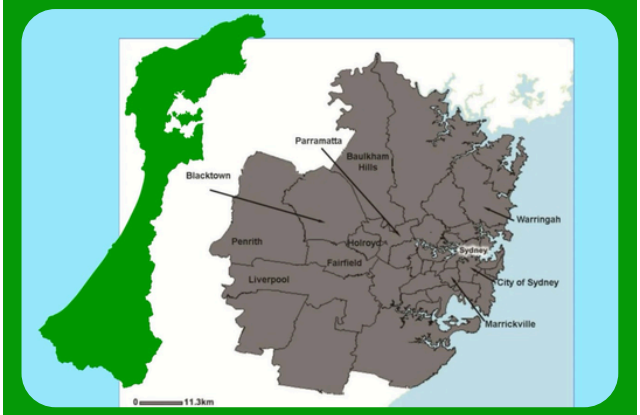


オーストラリア留学 シドニー ６月

About Sydney



シドニーと石川県の縮尺の概略図。
灰色の範囲がシドニー。
シドニー市全体でいうと面積は1.2万Km²
（北海道の約1.5倍）
対して石川県の面積は約7000万Km²
なのでシドニーは石川県の２倍弱ほどの
面積となる。

(参照：ABS (2011) CDATA ONLINE
ILLUSTIMAGE.COM)

GEOGRAPHY

シドニー

オーストラリア南東部に位置するシドニー。シドニーといえば海のイメージが先行しがちだが、実際はさらに内陸にかけ土地が広がっており、沿岸部から山間部にかけての広大な土地に驚かされた。

シドニーでさえも山間部には放牧を伴う牧場が多く見受けられた。

市内でも車での何時間もの移動を要するような広大な農地を最大限活用し大規模経営が行われている様子が窺えた。

冬でも日差しが強くぽかぽかとしており、農業に活用できそうな快適な気候だった。



COUNTRY UPDATE

英国、そして豪州へ

２か月滞在したロンドンを後にし、シドニーへ降り立った。ところどころの町並みがイギリスの息吹を感じさせつつも、近代的で実に広々とした風土だった。

イギリス同様に移民大国だが、イギリスが「互いに関わり補い合う」尊重を持つ国だとしたら、こちらは「互いに干渉しない」尊重を持つ国という印象を受けた。

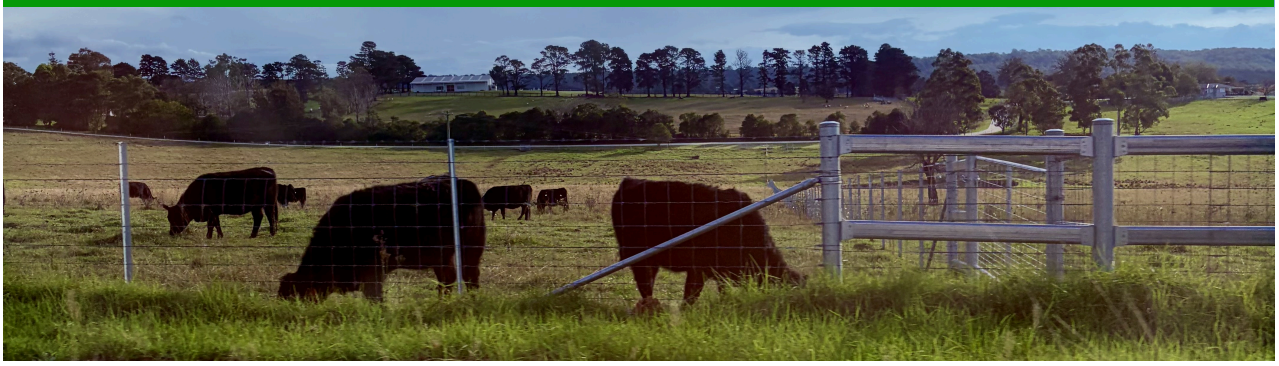


一段高い車窓から

シドニーという都市でさえもかなり広大なので、外出には電車移動が必須だった。ロンドンでは２階建てバスが有名だが、こちらは人が多く利用する前提で電車が２階建てとなっていて新鮮だった。

電車で１時間前後の移動はもはや当たり前で、私は普段日本で２時間程かけて通学しているが、それを言っても驚かれない環境だった。私たちにとっての「当たり前」が如何に揺らぎを含んでいるか実感した。

HTTPS://WWW.UCON-I.JP/GLOBAL-TRAINING/ABROADREPORTS/



IMPACT REPORTING

農場研修

　シドニー郊外の農場を複数訪問・研修させていただいた。どれも自分には新鮮な体験だった。実際の業務を通して普段の飼養や繁殖で意識するポイントを学んだ。

鳩農場 @JK Integrated Farm

　初めて食用の鳩の農場に足を踏み入れた。アジアの料理屋から一定の需要があるそう。

　街中の鳩とは異なり飼料にも気を遣い、純粋で肉付きの良い個体へ育てているようだった。





鳩の孵化事情

　この農場では、プラスチック製の安価な受け皿(左)で卵を孵化させた場合、陶器製の高価な受け皿(右)の場合と比べて孵化成功割合が低くなると聞いた。体外受精においても胚発生の段階でHatching(孵化)という同じ単語を使うので、種は異なりつつも繁殖における条件の大切さを再確認した。

酪農場 @Premier Genetics

　シドニーで凍結精液や受精卵の生産・販売を行っている酪農場へと通わせていただいた。

　日本とは異なりホルスタインのみならずジャージーやブラウンスイス種ともブレンドして搾乳しており、味もほのかにクリーミーで濃厚な風味が増していた。



EDUCATIONAL VIEW

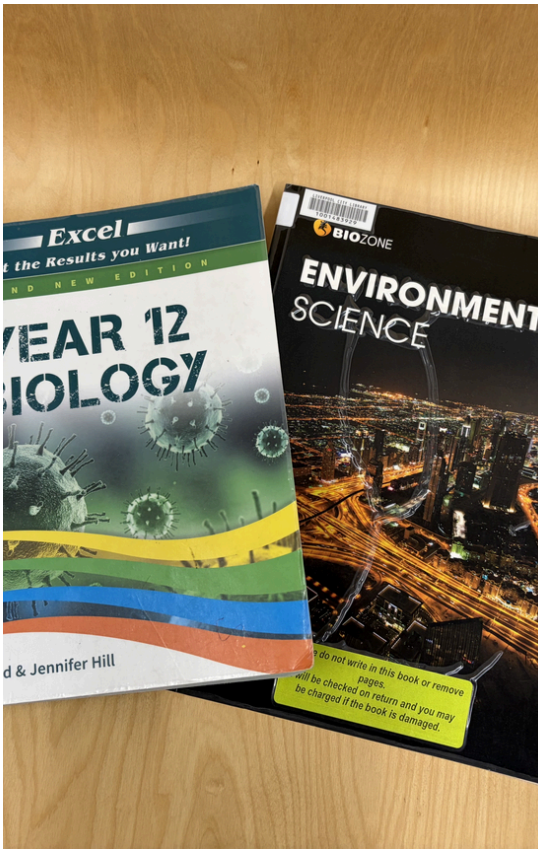
理科教育から豪州を見る

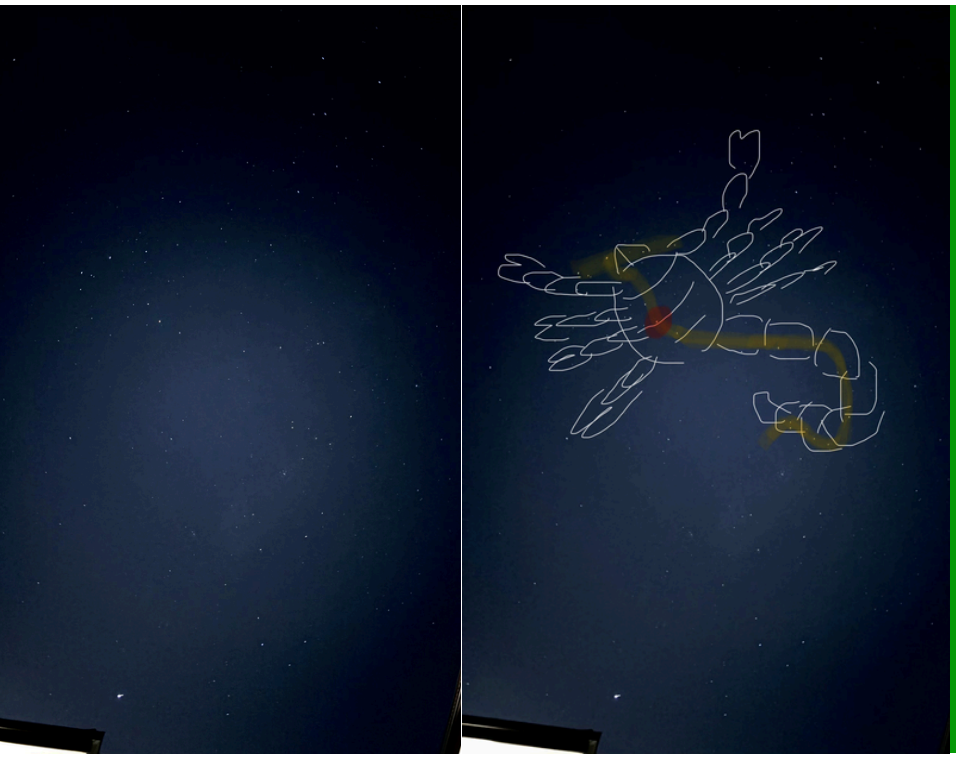
FIND THE ANOTHER PERSPECTIVE



近所の公立図書館へ向かい理科教材を見てみると、案外学習している内容は日本と似通っていた。

ただ理科は横文字が多いので、英語も使って教えられると逆に分かりやすい部分もあるかもしれないと思った。また純粋に好奇心をそそられる内容の教材もあったので、「生きた理科」を教える重要性を再確認した。





「満天の星空」とはこのこと…

街灯の少ない郊外地域で暮らしていたので、個人的に今までで最も星が綺麗に見え、感動した。

初めて、浮かぶ数々の星(左)の中から星座(右・さそり座)を自力で見出すことができた感触は何にも代え難い発見となった。

また、大学の理科教育の授業で「銀河鉄道の夜」を科学的に考える授業を経験したことから、その授業に登場したさそり座を思い出し理科教育の可能性に胸が躍った。

開かれた博物館

シドニーでは、ほとんどの博物館の基本展示が入場無料となっていた。その根底には博物館としての役割、叡智を保存し、広く一般に知らせることが重視されているように感じた。日本ではそのようなことがあまり起こらずつい忘れてしまいやすいが、知は知りたい者のために、広く共有されるべきであるということを改めて胸に刻みたい。

自分が教師になったとき、知りたいと望む生徒に全力で応えられる教師でいたいと思いを固めた。



ここ南半球では太陽が「北中」する。こういった日本との相違点も実用的な問いとして面白く理科を学ぶのに活用できる可能性を感じた。